地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料No.1-2

協議会名： 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 生活交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ㈱	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、立待線、河和田線	【前回の評価内容】 （評価できる取組み） ・市内公共交通の利用促進にかかる周知の取組として、市の観光イベントと合わせた情報発信、SNSの活用、高齢者サロンでの出前講座の実施など、多様な方法による取組を行っていることを確認しました。 ・つつじバスの小型バス新デザインによる運行にあたっては、市内こども園児の参加によるお披露目式塗り絵体験、記念撮影の実施、またバス停看板のデザイン刷新に当たっては、市内高校生と協働でデザインを作成するなど、若年層の関わりを積極的に取り入れることでコミュニティバスへの愛着の形成に繋げていることを評価します。 ・市内を運行する地域間幹線系統の廃止を受け、沿線住民、とりわけ高校生の通学利便確保のため、福井県、関係市町等関係者と連携して対策を進められたことを確認しました。 （期待する取組み） ・利用促進にかかる取組に関して、引き続き多種の媒体による情報発信や、観光関連、子育て、福祉関連など他部門と協力・連携した積極的な施策の展開がなされていることを期待します。 ・市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統については、引き続き、利用状況の把握等に努め、福井県・沿線自治体・運行事業者等との連携の下、ネットワークの維持や更なる活用に向けた検討・取組が進められることを期待します。 【事業の実施内容】 ①令和5年度から引き続き実施しているSNSを活用したコミュニティバスの情報発信については、コミュニティバスの日常だけでなく、福井鉄道や福鉄バス、今年3月から第3セクター化されたハピラインふくいなどの様々なイベント情報を絡めて情報発信することで、公共交通全体での利用促進を図っている。さらに、市の観光イベント等とも合わせて情報発信することで、普段バスを利用されていない方にも目に触れる機会を創出するよう努めている。そうした取り組みからSNSのつつじバスアカウントのフォロワー数も増加しており、情報を確認しリアクションを取った証拠である「いいね！」の数も増加傾向にある。 ②（①とも関係するが）日頃コミュニティバスを利用されていない方に対する利用促進の取り組みとして、地域の高齢者サロンでの出前講座を継続的に実施している。コミュニティバスを利用されたことがない方からすると、近所のバス停の位置はまだしも、バスが来る時間や行先（時刻表の見方）、そもそもいくらでどのように支払うのかなど、わからないことが多いことが利用を妨げている。サロンにおいては、地域ごとに配布資料を加工し、その地区・町内におけるバスの効率的な利用方法について説明を行っており、参加者からも好評をいただいている。今年度は計7回の実施で100人以上の皆様に説明させていただいている。 こうした情報発信、利用促進の取り組みについては、引き続きより良い周知方法や見せ方などを検討しながら、継続して取り組んでいく。 ③地域間幹線系統については、市民の広域的な移動手段として必要不可欠なものとなっているが、バス運転士不足等の影響により減便が相次ぎ、福鉄バス福浦線が令和6年9月末をもって廃線となった。こうした状況を受け、県・関係市町・実施主体とが連携して対策を講じるため、福井県の主導で緊急会議やワーキング等を実施し対応に当たっている。市内を運行していた福浦線については、越前町民や鯖江市民が福井市に出る移動手段として利用するほか、福井県立丹生高等学校の生徒の通学手段として利用されていた。利用者への影響を最小限に抑えるため、同じく越前町から鯖江市へ走る福井鉄道鯖浦線のルートおよびダイヤを調整し、通勤通学の時間帯の便を強化したほか、福井鉄道神明駅から福井市への朝の鉄道便を増便し、神明駅から鉄道利用で福井市に出る移動手段を確保した。さらに、丹生高校生徒の通学時間帯と合わせたダイヤ、ルートとすることで、学生の既存利用者にも最小限の影響となるように調整した。これらの対応により、多くの福浦線利用者を鯖浦線でカバーすることができるものと考えており、市民の利便性低下は避けられないが、福浦線利用者が鯖浦線に流れることで、鯖浦線単体の利用者数は大きく増加する見込みとなっている。	B	令和7年度事業については、概ね地域公共交通計画に基づいて事業を進めることが出来た。 令和4年4月に実施したダイヤ改正内容の定着し、利用者も順調に増加しており、利便性の向上や新たな利用者獲得に向けて幅広い年代層に向けた事業を行ってきたところである。 令和6年度に、新たにバス車両へのラッピングによる広告を募集し、株式会社鯖江村田製作所から応募いただき、ラッピング車両の運行を始めた。8台あるコミュニティバスのうち2台を鯖江村田製作所のチアリーダーロボットとレッサーパンダの「ウルウル・メガメガ」がコラボしたかわいいデザインのラッピングを実施。地域企業のPRとともに、コミュニティバスの安定的な運行を図るための収入が確保された。 各種イベントでは今年度作成したつつじバスプルバックカーや消しゴムの配布を行い、つつじバスのPRを行った。ハピライン鯖江駅と福井鉄道神明駅とをつつじバスでつなぐイベント、鉄道ふくいフェスタ2025inさばえを開催し、当日のつつじバス利用は400人（前年同日190人）となった。公共交通への愛着の醸成や利用促進、つつじバスに一度乗ってみるきっかけづくりとなった。 また、令和7年度は利用者が16万人を超える見込みではあるが最終年度の目標に対しては未達であるため新規利用者の獲得や利便性向上にあわせて、次期公共交通計画を策定するため、利用者アンケートを実施し、つつじバスのダイヤ改正を検討していく。 コミュニティバスに関する情報発信の面では、令和5年度からスタートしたSNS(Instagram)を活用した情報発信を継続した。フォロワー数やいいね！数も順調に伸びており、今後も継続して情報発信していく。また、高齢者サロンでのコミュニティバス講座も継続して行い、乗ったことはないが今後乗ってみたいといった高齢者に丁寧に説明や、利用者のヒアリング、ポータルサイトの説明等を行い、利便性向上や利用促進につなげた。今後も継続していく。	B	○実績 [R3] R2.10～R3.9 目標　230,900人　　実績　107,021人 R4.4.1～ダイヤ改正実施 [R4] R4.4～R5.3（※R3.12に地域公共交通計画策定、R4.4.1にダイヤ改正を実施したことによる） 目標　149,200人　　実績　113,806人 [R5] R4.10～R5.9 目標　154,400人　　実績　124,279人 [R6] R5.10～R6.9 目標　159,600人　　実績　144,766人 [R7] R6.10～R7.9 目標　164,800人　　実績　159,684人 [R8] R7.10～R8.9 目標　170,000人　　実績　　人 ※一便あたりの利用者数推移 ○○線　[R3]→[R4]→[R5]→[R6]→[R7]→[R8] 循環線　[5.99]→[6.94]→[8.11]→[9.46]→[　]→[　] 鯖江南・新横江線　[1.26]→[1.55]→[1.39]→[1.58]→[　]→[　] 神明線　[4.13]→[3.24]→[3.78]→[6.17]→[　]→[　] 片上・中河線　[3.57]→[2.20]→[2.71]→[2.81]→[　]→[　] 立待線　[4.12]→[3.70]→[4.68]→[4.74]→[　]→[　] 吉川線　[5.02]→[4.02]→[4.70]→[5.02]→[　]→[　] 豊線　[4.45]→[5.00]→[6.17]→[6.70]→[　]→[　] 北中山・中河線　[1.18]→[1.39]→[1.49]→[1.83]→[　]→[　] 河和田線　[5.21]→[4.24]→[4.55]→[5.03]→[　]→[　] 全路線　[4.38]→[4.32]→[5.01]→[5.77]→[　]→[　] ○分析 パターンダイヤ化や各地区路線から市内循環線への乗継ぎ利便性の向上により、循環線の利用者数が伸びている。 また、昨年度に行ったダイヤ改正（福井工業高等専門学校の始業時間変更等に伴う変更）により、豊線の利用者数が顕著に伸びている。 その他の地区路線においても順調に推移している。	利用者数については、目標に対しては未達であるが、令和4年4月にダイヤ改正・路線改編を行ってから増加傾向であり、目標との隔離も徐々減ってきていることから、利用促進、周知活動を継続することで、更なる利用者の増加が見込まれると想定しており、最終年度までに達成が出来る見込みである。 今後の事業内容については、まず、ハピラインふくいや福井鉄道福武線の利用状況やコミュニティバスとの乗継ぎ状況について把握に努め、実績や要望に応じたダイヤ改正等を検討することより、利用者の利便性を損なわないようにする。あわせて利用者アンケートを実施し、その結果をもとに次期公共交通計画やダイヤ改正の協議を進めていく。 また、自宅がコミュニティバスのバス停から離れている等の理由で公共交通を利用できていない人のためのコミュニティバスの2次交通的な役割として、現在自家用有償旅客運送を展開している。こうした新たな交通手段を踏まえ、コミュニティバスの行き届かない範囲をライドシェア等でカバーするような新たな交通網の整備を計画していく。 新たな交通網の整備計画にあたっては、コミュニティバスの自動運転の検討を行い、公共交通を構築する様々な手段の中から最適な交通体系を構築していく。 新たな利用促進の取り組みとして、小学生以下の親子世代をターゲットにしたつつじバスの洗車体験・タクシー乗車体験イベントの開催を検討している。バスの洗車やタクシーの乗車で公共交通に興味を持ってもらい、公共交通全体の利用を促進するだけでなく、将来の担い手（運転士確保）の確保にもつなげる。 こうした新たな取り組みとあわせて、これまで一定の効果を上げてきたSNSを活用した情報発信や高齢者サロンでの出前講座等については継続して実施し、幅広い年齢層に利用していただけるコミュニティバス事業を目指す。
越前観光㈱	つつじバス 循環線、鯖江南・新横江線、豊線						
鯖江交通㈱	つつじバス 吉川線、立待線						
鯖江高速観光㈱	つつじバス 循環線、神明線、片上・中河線、北中山・中河線、河和田線						

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

2025/　/

協議会名：	鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	生活交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きくかけ離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R8年度の利用者目標170,000人で再設定を行った。 事業内容については、新ダイヤでの運行開始から3年半が経過し、ダイヤの定着が図られたことから、今後については利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得を目指す施策を行う。 利便性向上においては、R6.3の北陸新幹線金沢敦賀間開業に伴い、ハピラインふくい線に移行した鯖江駅や北鯖江駅について、R6.4に新鉄道ダイヤに合わせたつつじバスダイヤの改定をおこなっているが、今後も鉄道ダイヤ改正等が計画されていることから、実際の乗継状況も踏まえ、乗継ぎしやすいつつじバスダイヤへと調整を行っていく。また、乗り換え案内やイベント情報など、利用者が求める情報発信をSNS等を中心に発信していくことで、日常生活や観光、ビジネスなど様々なシーンで利用しやすいつつじバスを目指す。 新たな利用者の獲得においては、現在のつつじバス利用者層が通勤通学者と高齢者、障害者等に集中しているため、利用の少ない小学生やその親世代をターゲットにしたイベントを実施する。幅広い世代に利用されるつつじバスになることで、長期的に愛され持続していくつつじバスを目指す。